

中国短期大学保育学科における鍵盤楽器未経験者に対する 演奏技術向上の為の取り組み（2）

A Trial to Improve the Playing Method for the Inexperienced Students of Keyboard in the Childcare Department of Chugoku Junior College (2)

(2016年3月31日受理)

松井 みさ 土谷由美子 大山佐知子
Misa Matsui Yumiko Tsuchiya Sachiko Oyama

Key words : バイエル教則本, ピアノ演奏技術, 補習

要 旨

中国短期大学保育学科において、鍵盤楽器未経験者の演奏技術向上を図るため、平成26年度より1年前期開講科目である音楽基礎演習Aの授業到達度を調べ、前期授業終了時に授業最低到達目標に達しなかった学生を対象に、夏休み中にピアノ実技の補習を行っている。しかし、補習に参加しなかった学生や、補習が途中止めになってしまった学生がいた。そこで、平成27年度は対象学生全員を補習に参加させ、さらに補習期間を後期授業時間まで延ばすなどして、バイエルを終了させるようにした。それでも、13名の学生は途中止めになってしまい、全員をバイエル終了に導くことはできなかった。また、補習対象者の前期試験・後期試験の点数を調べることにより、バイエル終了の時期の違いにより平均点の上昇の幅に差が出ていて、バイエル終了の時期が早いほど、後期試験での点数が高くなっていることが分かった。基礎技能を身につけるためのバイエル教則本をきちんと貫徹することの必要性とともに、できるだけ早い段階でバイエル教則本を終了させることが、学生のピアノ演奏技術向上につながると考えた。

はじめに

筆者らは昨年、「中国短期大学保育学科における鍵盤楽器未経験者に対する演奏技術向上の為の取り組み（1）」において、中国短期大学保育学科(以下本学と呼ぶ)で平成26年度に行った取り組みについて述べた。そこでは、前期授業終了時に授業最低到達目標に達しなかった学生を対象に、夏休み中にピアノ実技の補習を行い、補習の予告をすることで、学生のピアノに対する学習意欲の向上が見られ、前期試験において、前年に比べて難易度の高い曲に挑戦する動きが見られることが分かった。さらに補習を行う事によって夏休み中も継続して学習を行う習慣ができ、意欲向上につながった。この意欲は、後期の授業にも継続され、前年度より鍵盤楽器未経験者の割合が多かったにもかかわらず、後期試験においても

前年度より難易度の高い曲に挑戦しようとする動きが見られた。一方、課題として、参加に消極的な学生への対応や、夏休み中にバイエル教則本を終了できなかった学生へのフォローをどのようにするかなどが挙げられた。そこで、今年度は、昨年の経験と反省を踏まえ、夏休み中にバイエルを終了できなかった学生に対して、後期授業期間中も継続して補習を行った。これらの取り組みによって学生のピアノ技術向上にどのような効果が現れたか、昨年と比較しながら研究を行った。

平成26年度の取り組みについて

本学1年生で、音楽基礎演習A（ピアノ）の授業において前期授業終了時にバイエル教則本（以下バイエルと呼ぶ）90番台に達しなかった学生を対象に、夏休み中に

ピアノ実技の補習を行った。授業における本来の最低到達目標は、バイエル終了であるが、90番台まで達していれば、自力での練習が可能であり、次の教則本であるブルグミュラー25の練習曲にも無理なく移行できると考えたからである。補習ではバイエルの40番台以降からまんべんなく12曲を選び、前期授業終了時対象学生を集め、補習の必要性を説明した上で、実際に学生が弾いていた曲以降の曲を練習するように指導した。対象学生には個人カルテを作って渡し、夏休み中に音楽の専任講師のところに予約を入れたうえでレッスンに通うようにした。教員は学生の持っている個人カルテにレッスン日、合格日を記入することにより、学生が3名の専任講師の誰のところに行っても進捗が分かるようにした。補習の終了期限は後期履修登録日として、それまでにレッスンに通い、カルテに指示されている曲を演奏できるようにした。

平成27年度の取り組みと結果

平成27年度も昨年度と同様、本学1年生で、音楽基礎演習A（ピアノ）の授業において、前期授業終了時にバイエル90番台に達していない（以下、この状態を「バイエルを終了していない」と呼ぶ）学生を対象に、夏休み中にピアノ実技の補習を行った。今年度も昨年度と同じように、バイエルの40番台以降からまんべんなく12曲を選んだ個人カルテを作り、学生に持たせた。そして専任講師に予約を入れた上、レッスンに行くように指導した。さらに昨年度の反省をふまえ、夏休み中にバイエルを終了できなかった学生については、後期履修登録時に学生を集めた上、バイエルを終了させることの必要性を説き、引き続き12月の授業終了時まで補習を行った。それでも終了できなかった学生は、冬休み中や1月初旬の補講期間、さらに1月末の後期授業終了まで補習を行って、バイエルを終了させるよう指導した。

平成27年度と26年度に学生が前期授業終了時、実際に練習していた曲を難易度別にまとめたものが表1である。平成27年度の音楽基礎演習A（ピアノ）の履修者は131人、平成26年度の履修者は141人である。平成26年度は1人出席不良で受験資格なしになったので、表1の合計人数は140人になっている。

	平成27年度		平成26年度	
バイエル60番台以前	26人	19.9%	23人	17.1%
バイエル70番台	19人	14.5%	17人	12.0%
バイエル80番台	3人	2.3%	17人	12.0%
バイエル90番～106番	24人	18.3%	30人	21.3%
ブルグミュラー以降	59人	45.0%	53人	37.6%

表1 前期授業終了時、学生が練習していた曲

前期授業終了時に補習の対象となった学生は、バイエル90番に達していない学生なので、平成27年度は48人（36.7%）、平成26年度は58人（41.1%）となり、割合で見ると、今年のほうが少なくなっている。平成26年度は、音楽基礎演習A（ピアノ）の受験資格を失った学生が1名いたため、その学生も補習対象者に含めている。しかし、前期授業終了時に実際に練習していた曲を比較すると、バイエル60番台以前を弾いている学生が平成27年度の19.9%に対して、平成26年度は17.1%、70番台においては、平成27年度の14.5%に対して平成26年度の12.0%と、いずれも平成27年度のほうが割合が多いことが分かる。さらに平成27年度はバイエル80番台を弾いている学生の割合が、極端に少なく2.3%しかいない。これに対して平成26年度は12.0%の学生が80番台を弾いている。つまり、平成27年度は補習の対象にならないバイエル90番以降と、進捗の遅い70番台以前の両極に偏っていることが分かる。

次に、平成27年度と平成26年度の音楽基礎演習B（ピアノ）の後期試験における演奏曲をまとめて表にしたものを表2に示す。平成27年度の履修者は130人、平成26年度の履修者は137人である。

	平成27年度		平成26年度	
ブルグミュラー1～5番	56人	43.1%	61人	44.5%
ブルグミュラー6～10番	20人	15.4%	15人	10.9%
ブルグミュラー11～15番	12人	9.2%	23人	16.8%
ブルグミュラー16～20番	5人	3.8%	4人	2.9%
ブルグミュラー21～25番	11人	8.5%	12人	8.8%
ソナチネ以降	26人	20.0%	22人	16.1%

表2 後期試験の演奏曲目

表2より、ブルグミュラー25の練習曲(以下ブルグミュラーと呼ぶ)を演奏した学生は、平成27年度が80.0%、平成26年度が83.9%と平成26年度のほうが多い割合になっている。一方、内訳をみると、ブルグミュラー10番までを演奏した学生は平成27年度が58.5%、平成26年度が55.4%となっている。さらに、11番から20番までを演奏した学生は、平成27年度が13.1%、平成26年度が19.7%となっている。

平成27年度と平成26年度、補習を行った学生のバイエル終了時期を表にしたものが表3である。

	平成27年度		平成26年度	
夏休み中に終了した	13人	27.1%	28人	48.3%
後期授業期間中に終了した	22人	45.8%	2人	3.4%
途中までしかできなかった(終了しなかった)	13人	27.1%	13人	22.4%
1度も補習にこなかった	0人	0%	15人	25.9%

表3 補習を行った学生のバイエル終了時期

平成26年度は、後期履修登録までを補習期限としてい

たので、それ以降は学生の自主性に任せたままになっていた。その結果、後期授業期間中にバイエルを終了した学生は2名にとどまっている。その結果、1度も補習に来なかった15人の学生も含めて、結局バイエルを終了できなかった学生が28人と補習対象学生の48.3%となり、ほぼ半数になってしまった。平成27年度は参加に消極的な学生への声掛けを徹底したため、1度も補習に来なかった学生はいなくなり、さらに、後期授業期間まで補習を延長してバイエルを終了させるように指導した結果、補習対象学生48人の内バイエルを終了できなかった学生が約27.1%の13人と昨年より少ない割合になった。しかし、本来の期限である後期履修登録まで、つまり夏休み期間中にバイエルを終了した学生は27.1%の13人と昨年の48.3%の28人に比べて少ない割合になっている。これは、平成26年度に比べ、バイエルを終了するまでに多くの時間を要した学生が多かったことになる。

では、バイエルの終了時期によって、試験の点数に違いが表れているか、平成27年度の補習対象者が前期試験・後期試験でどのような点数を取ったかを調べた。

結果を表4に示す。

		前期試験		後期試験		
バイエルを終了した(35人)	夏休み中(13人)	66.0点	65.1点	68.0点	67.3点	66.0点
	後期授業期間(22人)			67.0点		
バイエルを終了していない(13人)		62.5点		62.6点		

表4 平成27年度補習対象学生(48人)の実技試験における点数の平均

表4より、夏休み中にバイエルを終了させている学生の後期実技試験の平均点は68.0点である。一方、後期授業期間中にバイエルを終了させた学生の平均点は67.0点、バイエルを終了できなかった学生の平均点は62.6点である。バイエルを終了した学生と、終了していない学生では、平均点で3.7点の差ができています。バイエルを終了させている学生でも、夏休み中に終わらせた学生と、後期授業期間までかかった学生の間には1点の差ができています。

では、これらの学生は前期試験においてはどのような点数を取っていたのかを調べた。表4よりバイエルを終了した学生は66.0点、終了していない学生は62.5点となっている。バイエルを終了していない学生は、後期試

験の平均点が62.6点と前期試験の62.5点とほとんど変わらないのに対して、バイエルを終了した学生の平均点は、67.3点になっている。

表4の平均点の差は、前期終了時のバイエルの進度の違いから生じているのかと考え、平成27年度についてさらに詳しく調べた。表1の平成27年度、補習対象の学生が前期終了時にバイエルの何番台を弾いていたのかと、表3のバイエル終了時期を表にしたものが表5である。

		夏休み中に終了した (13人)		後期授業期間中に終了した (22人)		途中でしなできな(修了しなかった) (13人)	
バイエル60番台以前 (26人)	40番台 (15人)	3人	2人	15人	9人	8人	4人
	50番台 (1人)		0人		0人		1人
	60番台 (10人)		1人		6人		3人
バイエル70番台 (19人)		7人		7人		5人	
バイエル80番台 (3人)		3人		0人		0人	

表5 平成27年度補習対象学生の前期授業終了時における進捗とバイエル終了時期

表5より、バイエル80番台を弾いていた学生3人は全員夏休み中に終了させているが、前期授業終了時にまだ40番台を弾いていた学生でも、夏休み中にバイエルを終了させた学生が2人いる。その一方で前期授業終了時に70番台を練習していたにもかかわらず、未だに終了していない学生も5名いることが分かった。

考 察

平成27年度も平成26年度と同様、入学時に行ったアンケートによると、自己申告ではあるが、鍵盤楽器未経験者およびほとんど初心者に近い学生の割合は、約59.5%であった。しかし、前期授業開始時に補習の話を行ったからか、前期授業終了時のバイエル未終了者は、平成27年度48名、平成26年度58名と昨年に比べて少なかった。このことに関しては、平成26年度は前期授業終了間近に補習のことを初めて学生に伝えたため、まだバイエル90番に達していない学生は、今からどう頑張っても、前期授業終了までにはバイエルを終わらせることができないと考えていたと思われる。それに対して平成27年度は、前期授業開始時から、バイエルが終了しなかった場合、補習の対象になることを伝えていたため、授業開始時にバイエルを練習していた学生の多くが、補習の対象にならないように技術向上に努め、バイエルを終了させようとしたと考えられる。一方、補習対象になったにもかかわらず、夏休みすぐから補習に参加した学生は平成26年度に比べて少なかった。これは、表3の補習対象者のバイエル終了時期から分かる。昨年は48.3%の学生が後期履修登録の日つまり夏休み中までにバイエルを終了させているのに対し、今年度は27.1%の学生しか終了していない。バイエルを早く終わらせたいという意識の高い学

生は、前期授業期間中にすでにバイエルを終了させていると思われるので、補習に参加している学生は、バイエルを早く終了させようという意識が比較的低い学生か、もしくは、意識は高いが、練習がうまく技術上達に反映されていない学生と思われる。

その一方で、表2より、学生が後期試験においてどのような曲を演奏したかを考えてみた。すると、ブルグミュラーの中でも難易度の低い1～10番までの曲を演奏した学生が平成27年度に58.5%と、平成26年度の55.4%より多い数字であることが分かった。一方、11番から20番までを演奏した学生は、平成27年度が13.1%、平成26年度が19.7%となっていて平成26年度のほうが多い割合になっている。21番から25番までを弾いた学生は、平成27年度8.5%、平成26年度8.8%とあまり差がない。ソナチネアルバム以降を弾いた学生が平成27年度20.0%、平成26年度16.1%と平成27年度のほうが多いことを考えると、平成27年度はブルグミュラーの10番までの比較的簡単な曲を演奏した学生と、ブルグミュラー20番以降やソナチネアルバムなどの比較的難しい曲を演奏した学生の大きく2つに分けられることが分かった。

昨年の「中国短期大学保育学科における鍵盤楽器未経験者に対する演奏技術向上の為の取り組み(1)」によると、補習を行い、バイエルを終了させた学生の意欲向上は、後期の授業においても継続し、後期試験における演奏曲にも反映されたと考えられる。しかし今年度は、補習の対象にならないように、前期授業中からバイエルを終了させようという意欲的に授業に取り組み、結果として昨年度よりも補習対象者が少なくなったにもかかわらず、学生の意欲は後期試験の演奏曲目にはあまり反映されなかったと考える。これは、表3のバイエルを終了した時期と関わりがあると思われる。表3から、平成27年

度は夏休み中にバイエルを終了させた学生は13名と、平成26年度の28名の半分以下である。多くの学生は後期授業期間も補習に通いバイエルを終了させている。1年後期の音楽基礎演習B（ピアノ）の授業では、マーチの練習も加わってくるので、後期授業期間まで、バイエルを練習している学生は、本来の授業内容に加え、バイエルも練習しないといけないので、より多くの時間を必要とする。だから、ブルグミュラーを何曲も練習する時間的余裕がなくなり、結果として、ブルグミュラー10番までの比較的難易度の低い曲を試験で演奏することになったと思われる。このことから、平成27年度は学生の意欲向上が、後期の演奏曲目に繋がらなかったのではなく、バイエルを後期授業期間中まで練習して終了させたという形で表れたのだと考える。

バイエルを終了させた学生の意欲の差は、前期試験の点数においても差が出ている。表4より、補習対象者の前期試験の平均点は平成27年度で65.1点である。しかし、補習対象者でバイエルを終了した学生の平均点は66.0点であるにもかかわらず、終了できなかった学生の平均点は62.5点になっている。まだ補習が始まっていない段階で3.5点の差が出ている。後期試験においてはこの差はさらに広がり、補習対象者でバイエルを終了した学生の平均点は67.3点と前期に比べ1.3点上昇しているのに対し、終了できなかった学生の平均点は62.6点と0.1点しか上昇していない。バイエルを終了した学生と、終了していない学生との点数の差は4.7点となっている。さらに、バイエルを終了した時期で平均点を比べると、夏休み中にバイエルを終了した学生の後期試験の平均点が、68.0点なのに対し、後期まで補習を受けた学生の平均点は67.0点と1点の差が出ている。バイエルを終了するにしても、早い段階で終了した学生のほうが、後期試験においてよい点を出していることが分かる。

ここで、補習対象者の中でも夏休み中にバイエルを終了した学生は、実際は進度が進んでいて、その結果前期授業終了時にはバイエルの後半を練習していたので、夏休み中にバイエルを終了できたのではないかという疑問がわいた。しかし、表5により、前期授業終了時に80番台を弾いていた3名の学生は夏休み中にバイエルを終了していたが、60番台以前を弾いていた学生でも3名は夏休み中にバイエルを終わらせている。さらにそのうちの

2名は前期授業終了時に40番台を弾いていたことが分かった。後期授業期間中に終了させた学生を見ても、22名のうち15名は前期授業終了時にはバイエル60番台以前を弾いている。さらにその2/3に当たる9名は40番台を弾いていた。その一方で、前期授業終了時に70番台を弾いていたのに、後期授業期間が終わっても未だにバイエルを終了させていない学生も5名いることが分かった。前期授業終了時に何番を弾いているかにかかわらず、学生の意識と意欲の差によるところが大きいのではと考えられる。

ま と め

前期授業期間においてバイエルを終了できなかった学生について補習を行い、バイエルを終了させることは、終了しなかった学生に比べ後期試験において点数の上昇が大きいことが分かった。これは、演奏技術がより向上したと考えることができる。さらに、バイエルを早い段階で終了させたほうが、より点数の上昇が大きい、つまり演奏技術がより大きく向上したと考えることができることも分かった。そして、演奏技術の向上は、2年次の授業における童謡の弾き歌いなどの実践的な曲を練習するにあたっての、大きな基礎となる。さらに、実習や就職試験、そして現場に出た時の保育技術にも繋がる。本来は、前期授業で全員バイエルを終了させるべきだが、実際は難しいことを考えて、来年度は、前期授業期間内にバイエルを終了できなかった学生に対し、夏休みの練習計画を立てさせるなどして、できるだけ早い段階で補習に参加し、バイエルを終了させるように指導したい。そうすることで学生の意欲向上と技術向上に努め、さらに補習に消極的な学生へより細かく対応し補習対象者全員が夏休み中にバイエルを終了できるようにすることが、学生全体の技術向上に繋がると考える。今後も技術向上のための取り組みについて継続的に研究を重ねたい。

参考・引用文献

- 松井みさ 土谷由美子 大山佐知子 「中国短期大学保
育学科における鍵盤楽器未経験者に対する演奏技術
向上の為の取り組み（1）」中国学園紀要 第14号
（2015） pp. 19-24
- 全訳バイエル教則本 全音楽譜出版社
- ブルグミュラー25練習曲 全音楽譜出版社